

令和2年度 学校評価実施報告書

学校名 (太秦中 学校)

教育目標	
「自ら考え行動し、協働できる生徒の育成」 ～ つながりを意識した学校 ～	
年度末の最終評価	
自己評価	<p>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標を踏まえた目指す生徒像は、「周りの意見に耳を傾け、自分の考えを適切に伝えられる生徒」と昨年度決定した。今年度は、学年会を中心に目指す教職員像を相談し、「愛情をもって生徒と関わりあい、ともに成長できる教職員」に決定した。教職員として、生徒に向き合うときに必要な要素の中で、まず生徒の成長を願う気持ちがあげられると考え、「愛情をもって」を入れた。そして、一人ひとりの生徒に寄り添う姿勢を重視して、「ともに成長できる」を入れた。この2点を確認し、今年度をスタートすることができた。 ・コロナ禍の中、各種アンケート、生徒の様子、関係者の声等から、友達等と一緒に過ごしている実感を求める生徒の気持ちやつながりを求めている様子が見て取れた。コロナ感染拡大防止を重視した教育活動の中で協働やつながりを実現するのは大変難しかったが、つながりを求める生徒の声に応え、取組内容・形式・方法等を創意工夫して、計画・実施を進めることができた。 ・協働の基盤となる言語能力の育成を目指して、カリキュラム・マネジメントを行い、コロナ禍の中での授業改善や総合的な学習の時間を軸においた取組を推進してきた。今後もその成果を活かし、学校全体で言語能力の向上を目指したい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちに対して、熱心に教育を行っていただく教職員の方々の姿が熱く感じられた。ありがとうございます。 ・生徒の小さな一歩、小さな声を見逃すことなく受け止め、認めることができるか、教職員の成長は生徒の成長につながると思う。 ・目指す教職員像の「愛情をもって」「ともに成長できる」はとても良い。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	9月24日	学校運営協議会委員
最終評価	3月8日	学校運営協議会委員（書面審議）

(1)「確かな学力」の育成に向けて『学力向上プラン』

重点目標

カリキュラム・マネジメントを通して実践する協働の基盤となる言語能力の育成

具体的な取組

【PDCAサイクルの確立】

- ・関連単元配列表を用いた、言語能力を意識した取組や他教科とのつながりの意見交流。
- ・各教科オリジナルの生徒授業アンケートの実施及び結果の分析。
- ・教科会・学年会・職員研修において学習確認プログラムや全国学力・学習状況テストの分析。
- ・小中授業研修会による小中連携。

【授業改善】

- ・関連単元配列表をさらに簡潔化して可視化できる環境を整備する。
- ・どのクラスにも学習班をつくり、思考ツールなど同じ手法を複数教科で活用する。
- ・ピクトグラムを活用し、生徒も教職員もその活動がどのようなねらいをもっているのかを見えるようにする。
- ・各教科の特性を見方・考え方を基盤として、言語能力を育成する。
- ・発問の工夫など生徒が思考を働かせる工夫をする。
- ・ペア・グループ活動のあとに、一人で思考する時間を設ける。
- ・各教科で行っている「振り返りシート」の見直しをする。（「自らの変容」「他者からの学び」を入れる。）

（取組結果を検証する）各種指標

- ・ジョイプロ・学プロ・全国学力・学習状況調査の分析結果。
- ・家庭学習の点検結果。
- ・生徒・保護者アンケートの結果
 - ①自主的に家庭学習ができましたか。
 - ②コミュニケーション力（聞く力、話す力）がついたと思いますか。
 - ③人前で話すことが前よりできるようになりましたか。
- ・教職員アンケートの結果
 - ①「言語能力の育成」を意識した授業が行えていますか。
 - ②生徒が自ら考え、行動するように指導できていますか。

中間評価

各種指標結果

- | | 令和2年度 | 令和元年度 |
|---|-------|-------|
| ・生徒・保護者アンケートの結果 | | |
| ①自主的に家庭学習ができましたか。 | 43.2% | 38.9% |
| ②コミュニケーション力（聞く力、話す力）がついたと思いますか。 | 54.3% | 63.9% |
| ③人前で話すことが前よりできるようになりましたか。 | 50.1% | 54.5% |
| ・教職員アンケートの結果 | | |
| ①「言語能力の育成」を意識した授業が行えていますか。 | 84.9% | 85.8% |
| ②生徒が自ら考え、行動するように指導できていますか。 | 94.0% | 92.8% |
| ・全国学力・学習状況調査は中止。 | | |
| ・1年生ジョイントプログラムは、全市の正答率が示されていないため、全市との正答率の比較はで | | |

	<p>きない。(令和元年度正答率；国語 69.6, 算数 60.8, 令和2年度正答率；国語 67.2, 数学 63.6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年生学習確認プログラムは, 平均以上の教科が国語, 数学, 理科, 英語, 総合。 ・3年生学習確認プログラムは, 平均以上の教科が社会, 数学, 英語, 総合。
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語能力の育成を目指した教育活動の主軸を担う国語, 英語の学力に, 学年による多少の差異はあるものの, 伸びが見られ, 一定の成果があったと考えられる。 ・家庭学習は, 休校期間中での家庭学習課題提出の取組等により, 家庭学習の習慣はやや付いてきたと考えられる。継続していくことが課題である。 ・一方で, コミュニケーション力や人前で話すことは, コロナ禍で制限されていたため, 今後の学習活動を工夫しながら経験させる必要がある。 ・1年生では本校の正答率や日常の学習活動から見ると, 学力が高いとは言えず, 学力を定着させていくことが必要である。 ・2年生は社会以外の4教科は上昇傾向。3年生は英語と社会は着実に上がってきているが, 数学・国語・理科は下降気味。各教科弱点を分析し, 対策していくことが今後の課題である。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上のために, 発問の工夫, 振り返りシートの改善など, コロナ禍においてもできることを確実にやっていく。 ・グループやペア活動は言語能力の育成の軸になる活動であるため, コロナ禍におけるグループやペア活動のあり方を創造していくことは, 今後の大きな課題である。 ・対面的な活動が制限される中, 「見通しを立てる→振り返る」ということを様々な場面でを行い, PDCA サイクルを確立させることに取り組んでいるが, それによって学力がどれだけ向上していくのかは不透明であり, 検証が必要である。 <p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジョイプロ・学プロ・全国学力・学習状況調査の分析結果。 ・生徒・保護者アンケートの結果 <ul style="list-style-type: none"> ①自主的に家庭学習ができましたか。 ②コミュニケーション力（聞く力, 話す力）がついたと思いますか。 ③人前で話すことが前よりできるようになりましたか。 ・教職員アンケートの結果 <ul style="list-style-type: none"> ①「言語能力の育成」を意識した授業が行えていますか。 ②生徒が自ら考え, 行動するように指導できていますか。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中で, 人とのコミュニケーションが取れなかったと思う。再開された学校に期待する部分は大きい。感染予防対策を取りながら, できることから取り組んでほしい。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果		
・生徒・保護者アンケートの結果	令和2年度	令和元年度
①自主的に家庭学習ができましたか。	43.2%	←38.9%

	<p>②コミュニケーション力（聞く力、話す力）がついたと思いますか。 54.3%←63.9%</p> <p>③人前で話すことが前よりできるようになりましたか。 50.1%←54.5%</p> <p>・教職員アンケートの結果</p> <p>①「言語能力の育成」を意識した授業が行えていますか。 94.8%←85.8%</p> <p>②生徒が自ら考え、行動するように指導できていますか。 94.9%←92.8%</p> <p>・全国学力・学習状況調査は中止。</p> <p>・学習確認プログラム</p> <p>【1年生】 入学当初のジョイントプログラムの結果は非常に厳しかった。小学校で習う漢字を書くことができない、話を聞くことに課題がある、根気強く計算問題に取り組むことができないという状況であった。しかし、毎週の基礎的なテストの実施など学年全体で丁寧な取組を続け、Basic Stage1では数学は全市平均を4ポイント下回ったが、他の教科は全市平均並みまで正答率が上がった。</p> <p>【2年生】 毎日生徒一人ひとりが必要なことを家庭で学習するという「自主学習ノート」に取り組み、生徒が声掛けをしながら授業規律をきちんと守るということもできている。学習確認プログラムでもPre-Stage1では社会科以外は全市平均を上回り、着実に学力が伸びてきている。</p> <p>【3年生】 全教科全市平均を上回り、学習確認プログラム2nd Stageでは言語能力の育成の中核である国語と英語は特に高かった。</p>
自己評価	<p><u>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</u></p> <p>・家庭学習については各教科・各学年の取組の成果があり、昨年度よりも「できるようになった」と答えた生徒・保護者の割合が増えた。長期にわたる休校期間の分の学力保障が今年度の課題であったが、7限授業・補習・土曜学習の実施などを行うとともに授業の工夫を行ってきたことで、すべての学習内容を終えることができた。</p> <p>・今年度も、言語能力の育成を目指して全教科で取り組み、94.8%の教職員が「言語能力の育成を意識した授業をしている」と答えた。学習確認プログラムの結果も良好であることから、コロナ禍で対面的な活動ができない中で、工夫した取組の成果が出ていると思われる。</p> <p>・次年度の課題は、新学習指導要領に対応した授業と評価をすること、コロナ禍が長引くことも想定し、さらなる授業改善や一人一端末の有効活用をしていくことがあげられる。また、対面的な活動ができない中でも、コミュニケーション力（聞く力、話す力）が伸ばせる工夫をしていきたい。</p>
学校関係者評価	<p><u>学校関係者による意見・支援策</u></p> <p>・コミュニケーション能力（聞く力、話す力）は、小学校においてもグループワーク等を取り入れ、児童間で活発な意見交換が実施されているように、今後非常に大事な課題であり、重視してほしい。</p> <p>・自己評価欄の最後「コミュニケーション力」は、確かに必要なキーワードだと思う。</p> <p>・人の話をしっかり聞く、どうしたら自分の思いを伝えられるか考える。言語能力の向上には、まず伝えることの大切さを学び、日々実践を重ねる必要があると思う。</p> <p>・家庭学習の習慣は、学力向上の最高の機会であり、今に集中するとともに「見通しを立てる→振り返る」も大切である。音読、朗読の素晴らしさにも目を向けた取組をお願いしたい。</p>

(2)「豊かな心」の育成に向けて

重点目標

自己有用感を高め、自尊感情の高揚を図り、自他を大切にする心など、つながりを意識した豊かな人間性の育成を目指す。

具体的な取組

- ・生徒が関わる周りの人たちとのつながりを意識し、自己肯定感や自己有用感が得られる取組の推進。
- ・「生徒を切り捨てない」「生徒を切り離さない」を基底に据え、共感的な生徒理解に基づく個に応じた指導の推進を図るとともに、生徒相互、生徒と教職員の受容的・共感的な人間関係の育成・深化。
- ・「豊かな心」の育成の柱となる道德教育の充実。
- ・学校経営の柱である「受容的・共感的な人間関係の育成」に向けた、一人一人が大切にされていると実感できる学級づくりの推進。
- ・道德的実践力を育むため、道德教育との柱となる道德の授業と特活との連携。
- ・生徒たち自身の手による「より質の高い集団作り」に向け、生徒会活動の一層の活性化。
- ・道德教育の在り方について、「それ自体が学習経験となる『評価』」を目指した研究の推進。
- ・若手実践研修等を通じ、教職員のスキルアップを図り、よりよい教育相談の実践。
- ・教育活動全体を通じた、人権尊重の精神の育成。
- ・生徒たちが多文化共生社会の担い手となるために、太秦の地と外国とのつながりに気づく取組の推進。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・生徒・保護者アンケート
 - ①自分を大切にしていますか。
 - ②他人を大切にしていますか。
 - ③一人一人が大切にされている学級ですか。
 - ④友達や先輩、後輩とつながっていると感じていますか
 - ⑤家族や先生など大人とつながっていると感じていますか
- ・教育相談結果

中間評価

各種指標結果

- | ・生徒・保護者アンケート | 令和2年度 | 令和元年度 |
|-----------------------------|-------|-------|
| ①自分を大切にしていますか。 | 70.2% | 68.9% |
| ②他人を大切にしていますか。 | 81.5% | 77.7% |
| ③一人一人が大切にされている学級ですか。 | 71.0% | 68.6% |
| ④友達や先輩、後輩とつながっていると感じていますか。 | 71.5% | 74.6% |
| ⑤家族や先生など大人とつながっていると感じていますか。 | 75.8% | 77.3% |

自己評価

分析(成果と課題)

- ・家で過ごす時間が増え、自分を見つめなおす時間が多く持てたことで、自分を大切にする生徒が増えた。
- ・人とつながりたいという欲求が増し、他人を大切にしようとする生徒が増えた。
- ・集団生活が減ったため、友達や先輩とのつながりを感じている生徒が減った。

	<p>・こうした思いで6月以降の学校生活を送ることにより、一人一人が大切にされていると感じさせる学級作りにつながっている。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>・「他人を大切にしたい」「一人一人を大切にしたい」「人とつながりたい」と思っている今は、つながりを意識した豊かな人間性の育成を目指す絶好の好機であり、学校行事や授業、道徳、学活を、「人とのつながり」を実感できるものになるように工夫していく。</p>
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <p>・生徒・保護者アンケート</p> <p>①自分を大切にしていますか。</p> <p>②他人を大切にしていますか。</p> <p>③一人一人が大切にされている学級ですか。</p> <p>④友達や先輩、後輩とつながっていると感じていますか</p> <p>⑤家族や先生など大人とつながっていると感じていますか</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>・コロナ禍の中、学校行事をどのように取り組むかは、頭の痛いところだと思うが、少しでも楽しいと思えるように取りくんでやってほしい。</p> <p>・コロナによる生活状態の変化によるいじめには、こちらもアンテナを張っておきたい。</p> <p>・いじめやトラブル等の情報があれば学校に連絡するなど、連携していく。</p>

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果		
・生徒・保護者アンケート	令和2年度	令和元年度
①自分を大切にしていますか。	68.1%	68.9%
②他人を大切にしていますか。	82.8%	77.7%
③一人一人が大切にされている学級ですか。	62.9%	68.6%
④友達や先輩、後輩とつながっていると感じていますか。	69.4%	74.6%
⑤家族や先生など大人とつながっていると感じていますか。	76.0%	77.3%
自己評価	分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題	
	・コロナ禍で他人とのつながりの大切さを感じ、他人を大切にしようと考えている生徒が増えたと考えられる。	
	・行事の縮小により一人一人の活躍の場が減っている。そのため自己有用感を感じにくい状況になっており、生徒の小さな成長や努力を見逃さない教職員の視野の広さが必要である。	
	・コロナ禍で友達や先輩後輩とコミュニケーションをとる機会が減りつながりを感じにくい状況になっている。その反面、家族とは以前と同様にコミュニケーションが取れているということも結果から推測できる。	
	分析を踏まえた取組の改善	
	・つながりを意識した学校を目標にしているが、コロナ禍で行事の短縮等を行う必要があり、現状は厳しい状況である。しかし一方で、生徒は人とのつながりを求めており、つながりを意識した豊かな人間性の育成を目指す絶好の好機でもある。人とのつながりを感じることもできる、工夫した取組を創造し、コロナに打ちかつ学校を目指したい。	

学校関係者評価	<div data-bbox="225 118 624 159" data-label="Section-Header"> <h4>学校関係者による意見・支援策</h4> </div> <div data-bbox="225 168 1428 490" data-label="List-Group"> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちの将来を見据えるとき、正に有徳教育の必要性があげられる。コロナ禍の中、学校再開までに少し時間がかかったために、つながりの部分で少し時間が必要なように感じる。 ・コロナ禍で、ますます家族との絆が重要となっているが、生活が厳しい家庭が心配である。 ・目立った成果はなくても、その過程の努力を認めてくれる人がいるのはうれしいもので、自信も生まれる。それぞれがもつ個々の特性を否定することなく、互いに足らぬところを補い合うのが、つながるということではないか。 ・人や物を大切にする心やつながりを学ぶことの重要性を感じる。 </div>
---------	---

(3)「健やかな体」の育成に向けて

重点目標

生涯にわたって自らの健康をコントロールし、「自らを律する力」「自らを改善していく力」を育成する。

具体的な取組

- ・食事，運動，休養・睡眠など調和のとれた基本的な生活習慣の習得。
- ・飲酒，喫煙，薬物の有害性や危険性，医薬品についての正しい知識の修得とその活用。
- ・運動することの楽しさを味わい，生涯スポーツにつながる体育学習や運動部活動のより一層の充実。
- ・心身の健康の保持増進を目指した食教育の推進。
- ・交通事故や水難事故，転落事故，熱中症等様々な危険から身を守るための知識を身に付け，判断力を養う安全教育の充実。
- ・地震・台風・大雨・火災等の災害は身近に起こりうるものとして捉え，主体的に行動する力を育てる防災教育の推進。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・生徒アンケート
 - ①防災や喫煙・薬物の危険性など十分にわかりましたか。
 - ②規則正しい生活ができていますか。
 - ③自らの健康増進ができていますか。
- ・教職員アンケート
 - ①健康増進に向けた指導ができていますか。

中間評価

各種指標結果

- | | 令和2年度 | 令和元年度 |
|----------------------------|-------|-------|
| ・生徒アンケート | | |
| ①防災や喫煙・薬物の危険性など十分にわかりましたか。 | 90.6% | 90.2% |
| ②規則正しい生活ができていますか。 | 48.2% | 43.2% |
| ③自らの健康増進ができていますか。 | 49.8% | 48.6% |
| ・教職員アンケート | | |
| ①健康増進に向けた指導ができていますか。 | 75.8% | 64.3% |

自己評価

分析（成果と課題）

- ・防災等の危険性の理解は，昨年度同様高い。コロナ禍の中で，自分の身を守る意識は一層高くなっていると思われる。
- ・一方で，規則正しい生活や健康増進に対する意識は向上したものの，半数弱にとどまっている。
- ・教職員も，コロナ対策を行う中で，生徒に対して規則正しい生活や健康増進について指導する必要性を感じている。

分析を踏まえた取組の改善

- ・素地が整っている今を契機にして，安全や防煙，薬物乱用防止をテーマにした学習をより進めていく。
- ・コロナ禍の中での新しい生活様式についての指導と合わせて，規則正しい生活や健康増進に対する意識を向上させる。

	<div>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケート <ul style="list-style-type: none"> ①防災や喫煙・薬物の危険性など十分にわかりましたか。 ②規則正しい生活ができていますか。 ③自らの健康増進ができていますか。 教職員アンケート <ul style="list-style-type: none"> ①健康増進に向けた指導をできていますか。
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣については家庭の役割が大きいの、地域で保護者を支援できればと思う。 新しい生活様式に慣れていくような地域の取組や呼びかけも、学校に協力して行っていく必要がある。

最終評価

<div>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</div>		
・生徒アンケート		令和2年度 令和元年度
①防災や喫煙・薬物の危険性など十分にわかりましたか。		90. 1%←90. 2%
②規則正しい生活ができていますか。		48. 3%←43. 2%
③自らの健康増進ができていますか。		51. 1%←48. 6%
・教職員アンケート		
①健康増進に向けた指導をできていますか。		86. 9%←64. 3%
自己評価	<div>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</div>	
	・コロナ禍で感染予防等に関する様々な情報発信がされる中、健康に対する意識は一層向上したと考えられる。	
	・教職員の意識も向上し、指導に反映できている。	
自己評価	・コロナ禍で全国的に体力的には落ちている中、新体力テストでは、握力、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび等において、全市平均を上回った。	
	・しかし向上は見られるものの、「規則正しい生活」「自らの健康増進」は半数程度にとどまっており、様々な角度からの取組・指導が求められる。	
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div>	
自己評価	・規則正しい生活を送り、健康増進を行うことが、コロナ感染予防に直結することを理解させる。	
	・自然災害が多発する中、安全教育や防災教育の充実も必要である。	
	<div>学校関係者による意見・支援策</div>	
学校関係者評価	・自分自身の健康や生活スタイルについては、正しい知識が身についていると思われる。一方で、コロナ禍の中での生活全体として難しい部分も見受けられる。	
	・専門医の講演などを企画し、医療の観点からも生活習慣について教育することも必要である。	
	・「災害時の行動は平時の活動の延長にある」との言葉通り、健やかな体は日常の暮らしの中から生まれていくと思う。	
学校関係者評価	・「生き方の基本」の再点検に取り組んではどうか。	

(4) 学校独自の取組

重点目標	「地域を愛し、主体的に学び、自らの未来を創造する児童・生徒を育てる」
自校の具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・小中校長会，小中主任会のさらなる推進。 ・小中合同研究授業，小中合同研修会の充実。 ・相互の行事等への積極的参加。 ・生徒会と児童会のさらなる連携。 ・小学生と中学生が，ともに学び，ともに活動する場の創造。 ・小学生の授業体験と部活体験への参加。 ・小中 PTA の合同行事を通じた連携。
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケート <p>①小中一貫教育が進むように意識し，行動できていますか。</p>

中間評価

自己評価	各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケート <p>令和2年度 令和元年度</p> <p>①小中一貫教育が進むように意識し，行動できていますか。 69.7%←50.0%</p>
	分析(成果と課題)
	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季小中合同研修では，教科ごとの分散会を実施し，今後の授業づくりに生きる研修を深めることができた。しかし，研修時間が限られているため，小中で納得いくまでの交流ができないままの教科もあり，課題が残る。 ・『9年間で子どもを育てる』という目的での小中連携を進めることができたのは，大きな成果だと考える。 ・カリキュラム・マネジメントを軸にした小中連携を行なうことができていて，その成果が教職員アンケートにも表れている。 ・一方で，相互の行事等への参加や小学生と中学生がともに学び，ともに活動する場，小中 PTA の合同行事などを，今までの形式で実施することは困難な状況である。 ・「勉強するのは楽しいですか」の問いに「そう思う」と答えた生徒が25%程度しかいない。9年間のどの時点でこのようになったのかを，小中連携の中で検証する必要がある。
	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム・マネジメントの研究報告会を，第2回小中合同研修会として位置づけている。夏季研修での議論との継続性を重視して取り組む。 ・小中学生がともに学び，活動する場を，従来の枠にとらわれず，映像やリモート等を活用して新たに創造していく。 ・小中で連携した学校評価の項目を設定する。
(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケート <p>①小中一貫教育が進むように意識し，行動できていますか。</p>

学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校と中学校が連携してもらえれば、地域としても大変安心である。 ・何かできることがあれば協力していきたい。
---------	--

最終評価

<div>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</div>	
①小中一貫教育が進むように意識し、行動できていますか。 56.5%←50.0%	
自己評価	<div>分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <ul style="list-style-type: none"> ・夏季小中合同研修での教科ごとの分散会開催やカリマネの研究発表会を小中合同研修の場としたこと等で、小中一貫に対する意識は高まった。 ・しかし、7月アンケートより12月アンケート結果は、約13ポイント下がっている。7月には約2/3の教職員が肯定的な回答をしたことを考えると、継続的な取組にする工夫が必要だと思われる。 ・コロナ禍の中、従来の枠にとらわれない発想が必要になっている。 ・「勉強するのは楽しいですか」の問いに「そう思う」と答えた生徒が25%程度しかいない。9年間のどの時点でこのようになったのかを、小中連携の中で検証する必要がある。
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・継続的な取組にするための工夫として、小中の情報交流が挙げられる。合同での研修や会議を頻繁に開くことは困難だが、お互いの授業や行事の様子を情報発信することは十分可能である。 ・小中学生がともに学び、活動する場を、映像やリモート等を活用して新たに創造していく。 ・小中で連携した学校評価の項目を設定する。
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な分野において小中連携が取り組まれていることは素晴らしいことで、常に小中が情報交換をすることが小中一貫教育につながる。学校運営協議会と教職員、PTAとの意見交換会を模索していることは大変良い取組だと思う。 ・小中一貫教育も必要だが、あまりとらわれすぎずに、それぞれの独自性も大切にしてほしい。 ・小中一貫の取組として合同授業の試みもありかと思う。小学校の問題を小学生と一緒に考えることで、何年か前の自分を振り返り、新たな今の自分を見直す機会になるのではないかな。 ・「勉強楽しい」が25%は問題だと思う。今しか頭に入らないことを、如何に意識させるか、工夫した取組をお願いしたい。

（５）教職員の働き方改革について

重点目標
教職員の超過勤務時間の縮減を目指す
具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営の組織化。 ・各部の長による部の統括。 ・個々の教職員のレベルアップ。 ・管理職による面談。
(取組結果を検証する) 各種指標
<ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケート <ul style="list-style-type: none"> ①働き方改革を意識して、超過勤務時間削減ができていますか。 ②気持ちよく働けていますか。 ・出退勤システムによる超勤時間の様子 ・ストレスチェック

中間評価

各種指標結果		
・教職員アンケート		
令和２年度 令和元年度		
①働き方改革を意識して、超過勤務時間削減ができていますか。		
68.8%←53.6%		
②気持ちよく働けていますか。		
84.9%←78.6%		
自己評価	分析（成果と課題）	
	・自分のペースで仕事をする事ができ、また部活動ができない休校期間中の働き方が、超過勤務の縮減につながっていた。	
	・一方で、日常の教育活動が始まり、そこに放課後の消毒作業や換気、マスク、手洗い指導、部活動でのコロナ対策が加わり、また学校行事が本格化、修学旅行何度も変更を余儀なくされる等の中で、徐々に超過勤務が増えてきている。	
	分析を踏まえた取組の改善	
・コロナを踏まえた年間行事計画の策定。		
・部活動についての整理。		
・若手への適切な指示が出せる中堅の育成、そのことを通した若手の成長。		
自己評価	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標	
	・教職員アンケート	
	①働き方改革を意識して、超過勤務時間削減ができていますか。	
	②気持ちよく働けていますか。	
・出退勤システムによる超勤時間の様子		
・ストレスチェック		
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策	
	・コロナ禍の中、苦勞して教育活動をしてもらっている。	
・大人の一人として、学校の教職員が率先してコロナ対策を行ってほしい。		

最終評価

<div> <div>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</div> <div> <div>・教職員アンケート</div> <div>令和 2 年度 令和元年度</div> <div>①働き方改革を意識して、超過勤務時間削減ができていますか。</div> <div>53.3%←53.6%</div> <div>②気持ちよく働けていますか。</div> <div>79.5%←78.6%</div> </div> </div>	
自己評価	<div> <div>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <div> <div>・休校期間中には部活動もなく時間的な余裕があったが、通常の活動に戻った上にコロナ対策が加わり、超過勤務時間削減は進んだとは言いがたい。</div> <div>・「気持ちよく働けていますか」の問いに対して80%近くが肯定的に答えているように、教職員の協働意識は高く、組織で動くことを今後も大切にしたい。</div> <div>・採点ソフトを全市に先駆けて導入し、採点、評価等に関わる時間短縮ができた。</div> </div> </div>
	<div> <div>分析を踏まえた取組の改善</div> <div> <div>・コロナを踏まえた年間行事計画の策定を更に進めていく。</div> <div>・中核となる教職員の力量を高める場となる運営委員会や生徒指導委員会等の質の向上を推進する。</div> <div>・若手への指導・助言を進めるための、中堅教職員と若年教職員との関係づくりを計画的に進めていく。</div> <div>・カリマネを軸とした組織力を一層向上させていく。</div> </div> </div>
学校関係者評価	<div> <div>学校関係者による意見・支援策</div> <div> <div>・コロナ禍の中、計画が何度も見直しを迫られる部分もたくさんあったように聞いている。コロナ禍を何かの転機ととらえて、教職員の超過勤務の改善が図られればと思う。</div> <div>・職員室の教員の机の上に1人1台のPCが置かれ、放課後も黙々とPCに向かう教員の姿を目の当たりにしている。特に近年はIT関連の情報化時代で先生方も大変だと思うが、学校全体で取り組むことが必要だと思う。</div> <div>・超過勤務削減に受けて努力されている姿は垣間見えている。しかしコロナ禍の中、仕事は増えざるを得ないと思われる。</div> <div>・コロナ禍の中では、誰もが新しい日常のルールを戸惑いながら受け入れる必要がある。「働き方改革」の目的と意味を再考し、コロナ禍の先に続く日々に向けて、個々のスキルを見直していくことを教育現場に期待する。</div> <div>・「気持ちよく」84%なので特になし。</div> </div> </div>